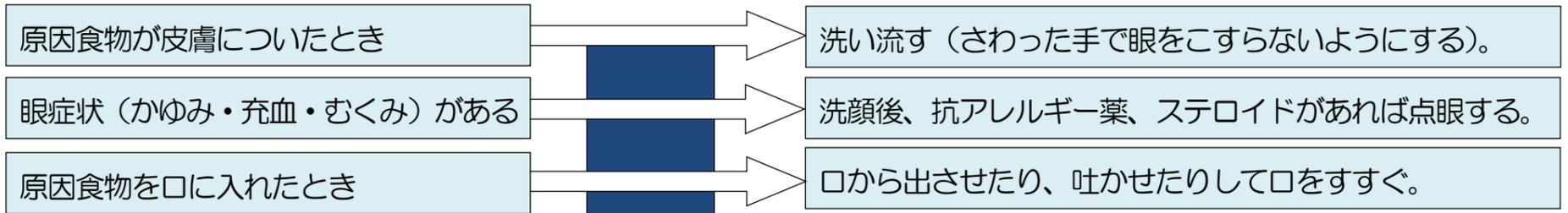


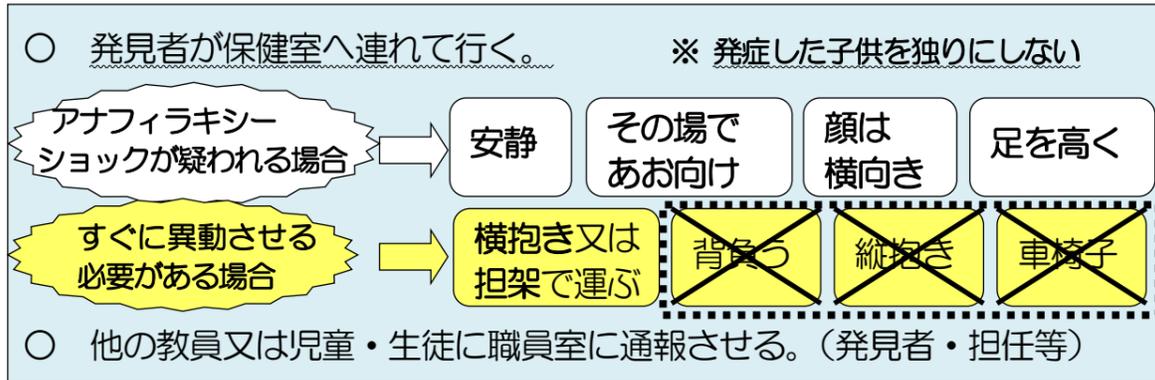
緊急(アナフィラキシー発症)時対応のフローチャート

掲示用

初期対応



応援体制の確保



⚠ アナフィラキシーによる血圧低下を防ぐため、決して行わない!

対応の実施

教職員への対応指示(校長)

○ 子供の症状対応と状態観察(発見者・担任・養護教諭等)
○ 主治医、校医への連絡等(副校長・養護教諭等)

保護者への連絡、救急車要請等(担任・副校長等)

救急車要請

- ・ アナフィラキシー^{※2}の兆候が見られる場合
 - ・ 食物アレルギーでの呼吸器症状の疑いがある場合
 - ・ 学校生活管理指導表で指示がある場合
 - ・ 「エピペン[®]」を使用した場合
 - ・ 主治医、学校医等又は保護者から要請がある場合
- 子供の状態の説明、どのような応急手当を実施したかを救急隊員に説明し、事情が分かる教職員が救急車に同乗する。

- 主治医、校医に連絡し、指示を受ける
 - 緊急時薬があれば内服
 - エピペン[®]^{※1}があれば用意、必要に応じて接種
 - 医療機関の受診(必要に応じ、救急車要請を考慮)
 - 必要に応じて心肺蘇生を実施
- ※¹ エピペン[®]=アドレナリン自己注射薬

エピペン[®]の使用法

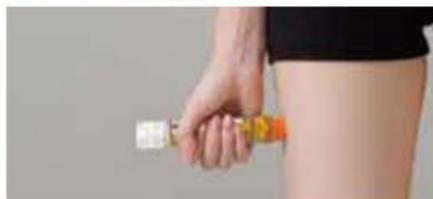
ステップ1 準備

携帯用ケースのカバーキャップを押し開け、エピペンを取り出す。青色の安全キャップをはずし、ロックを解除する。



ステップ2 注射

エピペンを太ももの前外側に垂直になるよう、オレンジ色のニードルカバーの先端を「カチッ」と音がするまで強く押し付け、数秒間待つ。



ステップ3 確認

注射後、オレンジ色のニードルカバーが伸びていれば注射は完了(針はニードルカバー内にあります)。



ステップ4 片付け

使用済みのエピペンは、オレンジ色のニードルカバー側から携帯用ケースに戻す。



※² アナフィラキシーとは、アレルギー反応により、じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、ゼーゼー、呼吸困難などの呼吸器症状が、**複数同時に、かつ、急激に出現した症状**をいいます。アナフィラキシーの中でも血圧が低下して意識の低下や脱力を来すような場合を「アナフィラキシーショック」と呼び、**直ちに対応しないと生命に関わる重篤な状態**であることを意味します。

○ エピペン[®]の副作用について
血圧上昇や心拍数増加に伴う症状(動悸、頭痛、振せん、高血圧)が考えられますが、一般的な小児では副作用は軽微であると考えられます。